

# 芥川文学と中国

## 目次

第一章	作家以前の芥川龍之介と中国	九
第一節	芥川の中国像	
――幻想と幻滅の二重構造		九
第二節	芥川と中国文学との接点	一九
一、四人の母と漢学		一九
二、中国文学との接点		二六
三、中国の情痴文学の影響		三五
第三節	芥川文学の形成	五一
一、孤独と出世の焦り		五一
二、「生」と「死」の問題		五四
三、矛盾の共存と死への関心		五七
四、エゴイズムの愛の認識		六二

五、漱石の称賛と文壇へのデビュー

第四節 芥川文学の特色

一、創作態度及び文体——森鷗外との比較

二、芥川とアフオリズム

六八  
七五  
七五  
九一

第二章 芥川龍之介と『聊齋志異』

第一節 蒲松齡その人と『聊齋志異』

第二節 『聊齋志異』と芥川の作品及び芥川のテキスト

一〇五  
一〇五  
一一五

第三章 芥川龍之介の「酒虫」論

——原典「酒虫」との比較研究

第一節 蒲松齡の「酒虫」

第二節 芥川の「酒虫」と原話との関連性

一二九  
一三三  
一三九

第四章 芥川龍之介の「杜子春」論

第一節 原典「杜子春伝」と芥川の「杜子春」の梗概

第二節 「杜子春伝」の考証

一六九  
一六九  
一七九

第三節 「杜子春」と「杜子春伝」との比較研究

一九三

第五章 芥川龍之介の中国詩画観

第一節 芥川の初期漢詩——梅花から展開される世界

第二節 「秋山図」論——芥川の芸術観

二一七  
二一七  
二四三

第六章 芥川龍之介と現代中国の文人

第一節 芥川龍之介と魯迅（Ⅰ）——「湖南の扇」と「薬」

第二節 芥川龍之介と魯迅（Ⅱ）——「羅生門」の中国語訳

第三節 芥川龍之介と胡適——中国の京劇を媒介として

第四節 芥川龍之介と章炳麟——「桃太郎」を媒介として

二五七  
二五七  
二八五  
三〇五  
三二三

参考文献

三二三